1.B.2.b.i 天然ガスの試掘（Exploration）（CO_2, CH_4, N_2O）

1．排出・吸収源の概要

1.1 排出・吸収源の対象及び温室効果ガス排出メカニズム

当該分野においては、天然ガス田の試掘時に漏出する CO_2、CH_4 及び N_2O の排出（通気弁、フレアリング以外）を扱う。

石油・天然ガスの開発･生産、輸送、供給時等における通気弁・フレアリングに伴う排出は、2006 年 IPCC ガイドラインの 2019 年改良版では「1.B.2.c. 通気弁及びフレアリング」で報告することとされている。我が国における油田及び天然ガス田の試掘時の漏出は、基本的にはフレアリングによるもののみであるため、当該排出量は「1.B.2.c. 通気弁・フレアリング」に計上しており、本排出源には排出量を計上していない。ただし、「1.B.2.c.Flaring.iii フレアリング（コンバインド）」における排出量の算定において、Good Practice Guidance（GPG）（2000）に示された排出係数のデフォルト値を用いているところ、デフォルト値はフレアリング以外の漏出も含む値であることから、本排出源からの排出量も概念上「1.B.2.c.Flaring.iii フレアリング（コンバインド）」に含まれているとみなし、本排出源では各温室効果ガス（GHG）の排出量を「IE」として報告している。

1.2 排出・吸収トレンド及びその要因

記載事項なし。

2．排出・吸収量算定方法

記載事項なし。

3．算定方法の時系列変更・改善経緯

表 1　初期割当量報告書（2006 年提出）以降の算定方法等の改訂経緯概要

	2015 年提出
排出・吸収量算定式	当該活動による排出が「1.B.2.c.Flaring.iii」に含まれていることが判明したため IE として報告。
排出係数	－
活動量	－

（1）初期割当量報告書における算定方法

我が国ではガス田の試掘が行われており、当該活動による CO_2、CH_4 及び N_2O の漏出はあり得るが、試掘する以前に油田とガス田を区別することは困難であり、統計上試掘井数や成功井数を石油井・天然ガス井に分割して把握することが困難であることから、油田・ガス田の試掘に伴う排出については「1.B.2.a.i 原油の試掘」に一括して報告することとし、本分野は「IE」として報告していた。

（2）2015 年提出インベントリにおける算定方法

2013～2014 年度における検討において、我が国における石油・天然ガスの試掘に伴う GHG 排出は、適切な管理がなされている限りフレアリングによるもののみであることが確認されたことから、試掘及び試油試ガステストに伴う排出量は「1.B.2.c. 通気弁・フレアリング」で算定・報告することとした。

ただし、「1.B.2.c.Flaring.iii フレアリング（コンバインド）」での試掘及び試油試ガステストに伴う排出量の算定に用いている GPG（2000）の排出係数のデフォルト値が、フレアリング以外の漏出も含む値であることから、本排出源からの排出量も概念上「1.B.2.c.Flaring.iii フレアリング（コンバインド）」に含まれているとみなし、ここでは各 GHG の排出量を「IE」として報告することとした。